

《国語科》

言語による認識の力をつけ、豊かな言語文化を育む国語教室の創造

— 読むことを通して言葉の価値を実感する国語科授業の在り方 —

田村 恵子 木村 香織

本校は、自立した学習者を育てるため、学び続ける意欲について研究を行っている。それを受け、国語科では「教材内容」(教材固有の内容)を深めながら「教科内容」(国語科で習得・活用すべき知識・技能)と「教育内容」(教科内容よりも広く、教科の枠組みを超えて広く指導していくもの)を豊かに関連づけ、統合していく単元構成を中心に研究を進めた。

それらの研究は一定の効果はあったものの、「教材内容」の深まりだけに終始し、学びを自己に引きつけた(国語科を学ぶ意味や価値を実感した)と言えない生徒の姿も多くみられた。生徒が自身の読みの変容に気づく際に、読みの方略(他の作品に転用できる知識・技能)の獲得を伴わなければ、国語科を学ぶ意味や価値の実感につながらないのではないか。そこで今期はこれまでの研究の内容を引き継ぎながら、自分自身の読みの変容に気づき、言葉の価値を実感し、学び続ける意欲をもった生徒を育成するための手立てについて研究を行う。

- (1) 〈読みを生きる体験〉と〈読みを自覚する体験〉の充実
- (2) 深い読みを生み出すための学習集団づくり
- (3) 題材と自己の変容に気づく振り返りの工夫



【考えを語り合う様子】

《社会科》

これからの社会のあり方を自ら考える民主社会の形成者の育成をめざした社会科学習のあり方

— 「社会観」を語り合うを通して「今・ここ」を相対化し「社会的自己」を捉え直す —

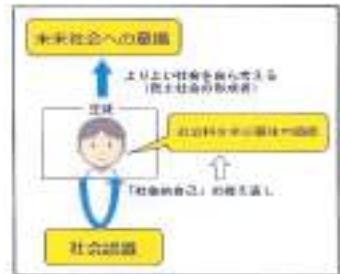
大和田 俊 大西 正芳

民主社会の形成者の育成という社会科の目標に到達するためには、「今、私が生きている現代とは、どのような時代か」、「今、私が住んでいる地域には、どのような特徴があるか」、「今、私が生きている社会には、どのような制度が形作られているか」、つまり、「今・ここ」を捉えられないと、今後の民主社会を形成していくことはもとより、その方向性を構想することすら、子どもたちにとっては困難だろう。このような、「『今・ここ』の社会に生きる私」を「社会的自己」と定義する。その「社会的自己」を捉え直す手がかりが、社会科で学ぶ社会的事象である。つまり、さまざまな社会的事象の学びによって獲得される社会認識を鏡として「今・ここ」を相対化することで、それまで漠然としていた「社会的自己」の捉え直しにつながると考えた。

ただし「社会的自己」を捉え直すためには、異なる時代、異なる地域における特殊性に対する確かな社会認識を獲得する一方で、「今・ここ」を生きる自己につながる一般性が必要である。その異なる時代、異なる地域と「今・ここ」を生きる自己とをつなげるのが、「国家とは何か」「豊かさとは何か」など人間社会の本質にかかる普遍的な概念である。そういった本質的な問いに対して、自分は何を重視して何を重視しないのか、理想の社会とはどんなものなのかという互いの「社会観」¹とそれに基づいた社会像を語り合う姿勢こそ、これからの中の民主社会の形成者に求められる資質・能力ではないだろうか。-

以上のように考えて、研究主題を設定し、次の3点を研究内容として、研究を進めている。

- (1) 「今・ここ」の自己につながる普遍的なテーマを設定し「社会的自己」を捉え直す単元構成
- (2) 「社会観」を語り合う場の設定と工夫
- (3) 「社会的自己」の捉え直しを「ものがたり」で語り直す場の設定



【研究構想図】

¹ 「社会観」とは社会に対する価値観のこと

《数学科》

数学で語ること²の意味や価値を実感できる生徒の育成

— 数学的活動を意識した授業から生まれる「ものがたり」を通して —

渡辺 宏司 吉田 真人

数学の本質は、その純粋な抽象的思考にあると考える。すなわち、論理に矛盾がなければ、実存する世界に合わせる必要がないということである。つまり、ある一定の条件（仮定）の下で、正しいと認められた事実（証明された定理）を使って、発見した新しい事実（定理）を証明する作業を積み重ねていくことが、本来の数学の学びである。

しかし、小学校・算数から、中学校、高等学校、大学へと数学が抽象化されていく中で、数学を学ぶことの意味や価値（なぜ、数学を学ぶのか？）を実感できずに、数学嫌いや数学離れが起こっている現状がある。このような状況の中で、「数学を学ぶ意味や価値」を子どもたちに実感させるのが、学校現場に求められている。数学は、系統性の強い教科である。そのため、問題発見・解決の過程を意識し、3年間の学びの中で、数学を学ぶことの意味や価値を涵養していくことが大切であると考える。

数学の問題発見・解決の過程では、必然的に数学で語ることが行われる。その過程の中にこそ、本来の数学を学ぶことの意味や価値に気づくことができるのではないかと考えた。そこで、次の3点を中心に研究を進めていく。

- (1) 探究する学びを促す単元構成の工夫
- (2) 数学で語ることを促すための批判的思考力を高める工夫
- (3) 自己の変容に気づくための振り返りの工夫



【数学で語る場面】

《理科》

自然事象から問い合わせを見出し、自ら探究する生徒の育成

— 科学する共同体の中でつむがれる「ものがたり」を通して —

鶴辺 章宏 山下 慎平 島根 雅史

生徒は、自然の真理や摂理を自らの手で解明していくことを通じて、その過程から得られた学びと自己とのつながりを実感した時、自然事象を新たな視点で捉え直すことができるようになった自分に気づき、学んだことの意味や価値を見出すことができる。このような考え方のもと、本校理科では、「自然の真理や摂理の追究」と「意味や価値の実感」を大切にして研究を行ってきた。

前回の発表会では、生徒自らが問い合わせを見出し、探究する中で、自己と自然とのかかわりを新たな視点で捉えることのできる生徒の育成をめざし、研究を進めてきた。それらは一定の効果はあったものの、見通しをもって探究を進められていない生徒や、学んだことと自己とのかかわりに気づかず、意味や価値の実感を伴っていない生徒の姿も見られた。そこで今期は、これまでの研究を引き継ぎつつ、生徒自らが疑問に対する仮説を立て、見通しをもって探究する力の育成と、探究する中で生まれた学びの意味や価値を実感させるための手立てについて、次の3点を中心に研究を行っていく。



【実験結果を確認しているようす】

- (1) 自己に引きつけた学びを生むための単元構成の工夫
- (2) 仮説を立てる力を育成するための教師のかかわり
- (3) 自己の自然観の変容に気づく振り返りの工夫

² 数学で語るとは、語る行為の中でも、数学的な根拠にもとづいて語るものと定義する。

《音楽科》

音や音楽の意味を見出し、音楽とのかかわりを深める学習のあり方 — 鳴り響く音や音楽を吟味する中で生まれる「ものがたり」を通して —

堀田 真央

音楽を学ぶ意味や価値を実感するためには、自分にとっての音や音楽の意味を見出し、音楽観の変容が起こることが必要だと考えている。また、音や音楽の意味を見出すことができたら、今後の音楽とのかかわりも深まり、豊かに生きることにつながると考えている。

学習場面においては、その場で鳴り響く音や音楽を吟味し、音楽の特徴を知覚し、それによって自己や他者がどのような感受をしたのかを関係づけていくことを大切にする。表現の工夫を考え試行錯誤を行ったり、作曲者や演奏者の意図などについて語り合ったりする中で、気づかなかつた特徴を知覚し、その特徴の意味を見出すことで、楽曲のよさや美しさを考えるきっかけとしていく。そして、「ものがたり」によって、音や音楽を吟味しその意味を見出してきた過程を振り返り、自己の音楽観を意識させ、その変容と今後の音楽とのかかわりについて見つめさせていきたい。そこで今期は、次の3点を柱として、研究を進めていく。

- (1) 音や音楽の意味を見出すための「概念」の設定のあり方
- (2) 鳴り響く音や音楽を吟味するための題材を貫く問い合わせ及び題材構成の工夫
- (3) 自己の音楽観の変容を意識させるための振り返りの工夫



【振り返り前の鑑賞の様子】

《美術科》

創造活動の価値を見出す美術の学び — 作品をもとに対話し、見出した問い合わせに向かう生徒の姿をめざして —

渡邊 洋往

創造活動とは、表現と鑑賞の両方をさす、美術科教育の本質的な活動である。本校美術科では、創造活動の喜びを見出すことができる生徒の育成のために、活動内容、学習過程の工夫、支援の方法を探ってきた。今研究では、創造活動の「喜び」から、それをさらに含む大きな視点として「価値」を見出す美術の学びを研究テーマとして設定した。

創造活動の価値とは、①歴史的、地理的にあらゆる場面で営まれてきた人間活動の基礎であり、②自らの見方で世界を捉え、答えを見出し、新たな問い合わせを生み出すことであり、③そしてその活動自体が喜びである。近年VUCA（変動・不確実・複雑・曖昧）と呼ばれる時代が到来しようとしており、そこでは自分なりの答え、あるいは問い合わせを見つけることが重要であると言われている。そのような現代において、創造活動の価値を見出すことは、意味のあることであると考える。

創造活動の価値を見出すためには、自らの見方で対象を見つめ、問い合わせを発見し、その答えを探し求めることが重要である。表現と鑑賞を通して、事象に対して「問い合わせ」を見つける課題提案型の思考（アート思考）、最適な答えを見つける課題解決型の思考（デザイン思考）、これらを行き来しながら、自らの問い合わせと答えを探し求める姿の実現をめざしたい。

このような生徒の姿の実現をめざして、以下の3点を柱として研究を進める。

- (1) 作品をもとに対話する場の設定
- (2) 作品から問い合わせを見出し、活動を通して深める題材構成の工夫
- (3) 自ら美を探し求める姿勢を養う美術環境の整備



【作品をもとに対話する場】